令和3年度行田市やる気応援助成金事業報告書

行田古代米カレー食べ歩きマップ「国指定特別史跡ってなあに？」事業

団体名　さきたま古墳・行田古代米カレーの会

助成分野　☐ ひとの元気　☑ 地域の元気　☐ まちの元気

1 事業の目的

埼玉古墳群がめでたく「国指定史跡＝史跡として重要文化財」から日本で63番目、埼玉県では初めての「国指定特別史跡＝史跡として国宝」に格上げされたことは大変に行田市にとって誉の事であり、行田市民にとっては市の古代の歴史を学び触れ合うことのできる素晴らしい機会であり、行田市以外の人にとっては「日本の古代史や古墳そのもの学びと体験ができる素晴らしい観光資源」になった。
しかしながら、コロナ渦のため県主催のお披露目を兼ねたセレモニーと基調講演並びにパネルディスカッションなどがすべて中止となり、埼玉古墳群の国指定特別史跡としての価値の認識も一般市民にとって不完全燃焼なものとなってしまっている。そこが最大の課題である。
そこでそれを当会のアイテムをもって、さきたま史跡の博物館の学芸員の皆様との協力体制のもと「さきたま古墳・行田古代米カレーの会の食べ歩きマップ」制作にあたり、そのチラシを手にされた方が埼玉古墳群の歴史的価値、不可思議性（多数のミステリー注：この点は事実として検証できない事項を多数含むためさきたま史跡の博物館には内容報告のみでマップには不掲載で了解いただく）、国指定特別史跡の意味合いを学び深めるための導線的役割を持たせて以下の2項目の目的を成し遂げる一助となすことを盛り込んで制作。又コロナ渦が思いのほか長引き参加店舗の存続を脅かしかねない状況に陥り事業目的③の1項目を追加。
①行田市民の埼玉古墳及び国指定特別史跡の本質的価値の理解を深める
②行田市外の人に大勢さきたま古墳公園に歴史的興味を持って来訪頂く
③新食べ歩きマップ制作によりコロナ渦で苦しむ会員店舗を応援する

2 実施内容

①さきたま史跡の博物館の学芸員のご協力のもと、埼玉古墳群の歴史的価値、解明されていない謎、国指定特別史跡の高い価値を浮き彫りにし、QRコートやライン会話形式で内容を簡単に把握できるアイテムを多数掲載したさきたま古墳・行田古代米カレーの食べ歩きマップを10月末から制作。令和4年3月上旬に完成。1万5千部印刷完了。
②上記印刷物を行田市内外の方に私的、公的協力のもと多数配布する。
主な配布先（アイテムの性格上次年度にも継続して配布）
・さきたま古墳・行田古代米カレー提供店舗
・さきたま古墳・古代米カレーの会役員並びにその関連企業
・さきたま古墳・古代米カレーの会のホームページ応援企業
・行田市公的機関（市役所・公民館・観光案内所・ぶらっとぎょうだ等）
・さきたま史跡の博物館
③今回の事業の目的に合致させた内容のホームページの改定を行い、マップなどを経由してより行田市の埼玉古墳群への興味の伝播を拡げる土壌を作る。

備考
今回事業終了期日を令和4年2月28日と設定しておりましたが、思いのほかコロナ感染の状況が改善しないため事業終了の時期が遅れ3月18日（金）となりました事謹んで記載させて頂きます。

3 事業費と主な支出内容

（1） 事業費：総額　252,582円（内やる気応援助成金　100,000円）
（2） 支出の主な内容
①新食べ歩きマップ制作費
②ホームページ改定費用
③通信費・会議費

4 事業の成果と今後の課題など

成果
①行田市内外の人に「国指定特別史跡」の意味と意義と素晴らしさを伝える一翼を担えたこと
②埼玉古墳群の基本的疑問をマップに掲載して一般市民に埼玉古墳群の学びの導線を作れたこと
③全国の古墳群の中でもとりわけ謎の多い埼玉古墳群のミステリーにメスを入れ、ホームページの中に埼玉古墳群の10大ミステリーとその謎を解き明かす1つの推論を掲載、埼玉古墳群の謎解きに関して多くの議論を推進していく上での1つの提案ができたこと
④さきたま古墳公園並びにさきたま史跡の博物館により多くの古墳に興味をお持ちの方にご来場頂くきっかけの一つを作れたこと
⑤プレスリリースの結果新聞社の取材を受けることができ、事業の成果を拡大できた事
⑥コロナ渦で苦しむさきたま古墳・行田古代米カレー提供店舗の営業の応援に今後なりうるマップを完成させたこと
今後の課題
①実際に行田市の一般市民（とりわけ小中高の児童生徒）に具体的に行田市のルーツの一つである埼玉古墳群や郷土史にもっと興味を強く持って頂く為の具体的な事業推進の必要性
②具体的に行田市民の「国指定特別史跡」の素晴らしさの認知度アップのための推進活動の必要性
③行田市の交流人口増のため、更なるマップの有効利用の必要性と場合によりマップ増刷の必要性
④前述の事業目的①②達成のため「行政」「ぶらっとぎょうだ」「さきたま史跡の博物館」「応援企業」と更なる連携の必要性